

NPO・市民・行政・医療機関

# 連携のカタチ

## がんのピアサポート活動 NPO法人ミーネットの場合

特定非営利活動法人ミーネット  
理事長 花井美紀

 NPO法人ミーネット





# NPO法人ミーネット 団体概要

行政・医療機関との連携のもと、  
がんのピアサポート活動に取り組んでいます



がん体験者を対象に、がんのピアサポーターを養成し、がん患者さんやご家族と同じ立場で共に考える相談支援(ピアサポート)を展開



## Q がんのピアサポートとは？

**A** ピア (Peer) とは「仲間」「同じ立場」サポート (support) は「ささえる」「寄り添う」を意味する。

がん体験者が、コミュニケーション技術やがんの基礎知識を学び、治療体験や療養生活で得た共通の経験と関心を基盤に、相談者（がん患者や家族）の悩みや不安を共感的に受け止め、ともに問題解決の糸口を探ること

私もそうでしたよ。  
いっしょに考えて  
みましょう。



# がんのピアサポーター養成講座

がんの基礎知識や相談支援スキルを身につけたピアサポーターが相談者の悩みについて、どうすればいいかを共に考えます。

- 対象：がん体験者
- 目的：患者・家族と同じ立場での相談支援
- 期間：1カ年(講座:全90時間・病院内実習:5回)
- がん専門医など医療者等の協力を得て開講



## ● こんな活動に取り組んでいます



- がん体験者を対象に、がんのピアサポーターを養成し、がん患者や家族と同じ立場で共に考える相談支援
- 行政や医療機関などと連携協力を図りながら、病院や公共施設などで「がんの相談支援活動」を展開。
- がんになっても安心な街づくりを目指し、患者視点で政策提言



あなた や あなたの大切な人が**がん**になったら



09年、全国に先駆けて誕生した、名古屋市と  
NPOの協働によるピアサポートでの相談支援施設



実施  
経緯

## WAM助成事業

### 高齢がん患者の地域連携・在宅移行支援事業

名古屋市がん相談・情報サロン ピアネットやがん連携拠点病院でのピアサポートを通して、高齢がん患者が、医療者と自身をつなぐ身近な相談相手を必要としていることを認識

ピアサポーターが身近な相談役として、地域の医療機関などと連携協力を図り、高齢がん患者の不安に寄り添い、その不安や悩みに応じて適切な専門職につなぐことを模索

ピアサポーターが、がん患者支援にかかわる地域の機関や専門職の役割を理解するなど、連携協力を図るためのスキルを身に付ける必要がある

# WAM助成事業

## 高齢がん患者の地域連携・在宅移行支援事業 実施内容

### 1. 実行委員会

本事業課題の把握、整理、検討等のため、連携協力機関より医療福祉専門職の委員の参加を得て開催。

開催:4回  
メール会議  
随時



### 2. 連携相談支援モデルの構築

拠点病院の相談支援部門などと連携して院内ピアサポートを実施し、支援の必要な患者の相互紹介を実施。

期間:6ヶ月  
回数:35回  
相談数:144件



### 3. 実践講習会の開催

高齢がん患者を支援する実際的なスキル(意思決定支援、在宅医療等)を取得するための講習会を開催。

講習会:5回  
受講者:延べ113名



### 4. 「あんしん」在宅フォーラム&ウォークの開催



商店街、デパート街などを約300名で  
デモ・ウォーク





## 5.事例研究会の開催

医療・福祉の専門職等と高齢がん患者相談事例の検討を行い、よりよい対応と、今後の連携協力体制の構築に向けて協議



## 7.eラーニング付き専用webサイト

高齢がん患者サポートの継続学習や、病院・診療所等との連携と情報共有化を図り、事業継続性を高めるツールとして整備。



## 6.事例集の作成

事業を通して、今後の問題解決や相談対応の参考となる冊子を作成し、関係機関・団体200カ所に配布。事例集を活用した講習会を実施。



## 8.ホットラインとサロン

電話での相談支援や少人数での集いを試行し、高齢がん患者が療養生活に関する情報と安心を得られる場としてサロンを開催



※サロン風景の写真は、利用者全員に掲載許可を得られていないため、個人が特定できないよう編集を加えています。

有識者による総合評価

# 汎用性のある成果

## 【高齢がん患者の対応事例集】

### 事例

#### これから治療について説明を受けるがその前に聞いておきたい

#### 1

相談者は、診断時の医師の説明がよく理解できなかったため、次回受診前にピアサポーターから話を聞いておきたいという。今後についても相談相手がいないと不安そう。

#### 1 相談内容 70代女性 乳がん患者

相談者（70代）は乳房に痛みがありN病院で検診を受け、その結果でI病院を紹介された。乳房の内側に腫瘍が見つかり乳房にも疑いがあるということだった。乳房にがんがあれば手術は全摘になると言われ、そうでなければ温存手術になると説明をされた。

また、センチネルリンパ節の生検は手術中に検査をしながらすすめると言われた。他にも医師から説明をされたが理解できなかったので、ピアサポーターにいろいろ聞きたいということだった。

相談者は夫に先立たれ、一人暮らしである。子供は長男のみで、海外に赴任しており支援は望めない。退院後の生活のことが心配である。もし予後が悪くて、自分のことが自分でできなくなった場合は、どのようにしたらいいかわからない。今のうちに施設に入ったほうがいいのだろうか。誰に相談したらいいかわからない。

#### 2 相談内容のポイント

- 1 乳がん診断後最初の説明を受けたが、テンポが速くて十分理解できなかった。
- 2 次回、医師の説明時に予備知識をもって聞けるように準備をした。
- 3 退院後の生活のことや今後のことも心配だが、誰に相談したらいいかわからない。

#### 3 ピアサポーターの対応のポイント

- 全摘か温存手術かの概略は説明を受けているため、その後の治療についての一般的なことを話した。（患者向けの乳がんの本に書かれている内容にそって話した）
- 温存手術になれば手術後に放射線治療を行うことが一般的といわれている。
  - 手術後、組織検査をしてホルモン感受性やHER2が陽性かどうか、また、いずれも陰性を調べる。その結果でホルモン療法やハーセプチン・抗がん剤による治療など決められると思うと伝えた。
  - センチネルリンパ節にがん細胞がとんでいるのか、その結果でリンパ節の辨清が行われると思うと話した。
  - 退院後の生活上の心配や、施設の入所のことなどは、かかっている病院の医療相談室やケースワーカーに相談できること、在宅療養については訪問看護や訪問介護、デイサービスなど色々な方法があるのでケースワーカーや居宅介護支援事業所などに聞いてみることを勧めた。

#### M 高齢がん患者・家族のあんしんサポート 事例集

#### 4

#### ピアサポートの結果

相談者は病院からもらった冊子を見ながら、ピアサポーターの話と、冊子に書いてあることを確認されていた。メモをとり、次回、医師から治療方針を聞く時は理解できると思うと言われた。退院後の生活のことと相談できる場があることを知り、安心したと言われる。今は自分のがんのことや治療のことをしっかり理解して、手術に向けて体調管理をしたいということだった。「話を聞いてよかった」と繰り返し言われ、明るい表情で帰られた。

#### 5

#### 対応したピアサポーターの所感

大変親切な方で、ピアサポーターの話をすぐに理解されたように感じた。冊子とピアサポーターの話を照らし合わせるように確認され、きちんと復讐されるようなところを見ると、お若いころに職業的にトレーニングされた方と感じた。このような方でも、主治医の最初の説明は理解できなかったという。がんの告知による衝撃もあると思うが、医療者には高齢患者にもっとゆっくり話していただくこと、ポイントは繰り返しいただくことをお願いしたい。

#### 考察

#### この事例から学ぶこと

信頼できる情報源を元に、相談者の安心につながる情報提供を行い、医療者との信頼関係構築をサポートする。

#### 【事例の背景と課題】

- 相談者の課題：高齢者で一人暮らし、医師の話が十分理解できない、家族は海外在住で支援が望めない。がんの治療でQOLが低下し、退院後自分のことが自分でできなくなった時の不安がある。

#### 【ピアサポーターに必要な知識や情報】

- 信頼できる図書やインターネットサイトを知っておくことにより、それを活用して医療情報を的確に伝えられる。社会資源として、「がん相談支援室」の役割、「地域包括支援センター（名古屋市はいいき支援センター）」の役割などを知っておくことにより、相談内容に応じて社会資源の紹介が可能となる。

- 多くの医療・福祉関係者、有識者が事例検討や事例集の作成に加わったことで、がんのピアサポートが客観的に評価され、課題の発見にもつながった
- 高齢がん患者支援の実際を具体的に示すとともに、実践的な参考書として活用できる
- 連携を進めるためのツールとして活用が見込める



# 今後の展開を見据えた 連携のポイント

## NPO法人ミーネット（事業実施主体）

- 地元の医師会等への広報、会場設営等の運営協力
- 医師会等、医療団体への広報



### 健康情報処理センターあいち

「高齢者の医療の確保に関する法律」における特定健診、特定保健指導が愛知県下で県医師会会員を通じて円滑に実施する目的の法人

- 講師の選定、講習会の運営協力
- 参加者の募集、講師の選定、研究会の進行管理
- 事例集の監修
- Eラーニング用の教材監修



### 愛知がんセンターネットワーク

標準的ながん薬物療法を遂行できる体制構築/新たな治療や支持療法の開発/がん診療への市民の理解を深めるための啓発活動

## Point

- 講習資料の提供、講師の派遣
- 事例研究会における資料の提供、講師の派遣
- サロン運営管理全般、ピアサポーターのスーパーバイズ



### 東海ターミナル研究会

患者にとって幸せな終末期医療を考える、医療者と市民の会。公開講座の開催、ターミナルケアに関する書籍の発行やリビングウィルの啓発を行う。

- 講師の選定、講習会の運営協力
- 地域の医療・福祉関係者への参加呼びかけ、フォーラム&ワークショップの運営補助、エイド班の担当
- 参加者の募集、講師の選定など



### 地域緩和ケアネットワーク

よりよい心と身体の「緩和ケア」により、在宅での療養生活を支援する職種を超えた地域ネットワーク。



# 【具体的な地域連携体制を構築するための課題】

## まずは

医療・福祉  
職との連携  
のいくための  
システム化

地域連携に  
よる相談支  
援モデルの  
体系化

質を担保し  
ていくため  
の評価体制  
の確立

ピアサポー  
ターのための  
具体的な  
マニュアル化

● まず、地域全体で「考える」仕組みを構築

● ピアサポーターと県・市・医療機関・介護事業所等との連携体制構築を目的とした実行委員会を設置し、定例化する。

● 高齢がん患者を支援するためのピアサポーターの知識・技術・対応のレベル設定

● ピアサポーターの支援能力評価のシステム化

● どのような問題にどのような対応し、どのような連携するのかを明確化する